

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 問合せ：03-3465-0671

1月13日（土） 演題未定
武田定光 先生 因速寺住職

1月27日（土） この世とあの世
三橋 健 先生 国学院大学名誉教授

2月10日（土） 演題未定
峯岸正典 先生 長楽寺住職

2月24日（土） この世とあの世
佐藤 研 先生 立教大学名誉教授

3月10日（土） 震旦の小釈迦と呼ばれた人
池田魯参 先生 駒澤大学総長

3月24日（土） この世とあの世
長谷正當 先生 京都大学名誉教授

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 問合せ：06-6346-7000

3月16日（金） 道昭 こんな人がいた！
西山 厚 先生 帝塚山大学文化創造学科教授

5月18日（金） 調整中

名古屋 第3水曜日 午後1時30分～3時
会場：いちご丸の内ビル9階（中区丸の内3-17-13）
会場整理費：500円 問合せ：052-962-4181

2月21日（水） 現代仏教の世界観
立川武蔵 先生 国立民族博物館名誉教授

いのち尊し

第8号

いのち尊し

平成29年
12月1日

一般社団法人
在家仏教協会

〒101-0062

東京都千代田区
神田駿河台3-3
五明館ビル202号

TEL
03-6684-6692

FAX
03-6684-6709

武藤義一先生のこと—「自然科学と佛教」を読んで

加藤 潔

（在家仏教協会理事）

一九五〇年の雑誌「大法輪」四
く六月号に、三回連載で「自然科
学と佛教」と題した論稿が掲載さ
れました。執筆者は武藤義一先生
（当時東京大学工学部助教授）。
当協会の発起人のお一人であり、
また三代目理事長として協会を導
いてくださった方です。先生は加
藤辨三郎・初代理事長と同じ科学
者で、仏教研究者として親交が深
かったとも伺っております。

論稿では、自然科学と仏教がそ
れぞれに探求する真理の共通性に
着目され、一方が他方を排除する
関係にはなく、科学が発展するに
つれて仏教への理解も深まってい
く、時代々に即した形で仏教を
より親しみやすく人々に説いてい
くべきだと唱えておられます。

冒頭に原爆発明の父と称される
米科学者オッペンハイマーを取り

上げ、彼が禅に関心を持っていた
ことも紹介しています。原爆投下
五年後の日本で、世間を恐れずこ
の論稿を公にされた先生の勇氣は
いかばかりだったでしょう。恐ろ
しい凶器を生み出す自然科学の害
悪を目の当たりにしつつも、なお
人類の幸福のための自然科学の価
値を信じ、そしてその真理探求の
果てにあるものは仏教の教えと変
わることがない、との確信を持っ
ておられたと拝察します。

\*

この論稿に触れてから、仏教と
自然科学の関係を論じる本を探し
たところ、脳科学や精神医学の分
野、量子力学の分野で両者の共通
点に着目した文献が多数あること
を知りました。その上で今一度仏
教に立ち帰ってみますと、難しい
と思っていた仏教がとてもわかり

やすく見えてもくるのです。目か
ら鱗の落ちる思いでした。

これは面白いと思つて他の分野
にも眼を向けてみますと、次々と
仏教との共通点が見えてきました。
文化人類学の構造主義、キュビズ
ム以降の現代美術、現代数学の群
論などの考え方に、諸法無我、縁
起など仏教に通じるものが感じら
れるのです。これらの多くは二〇
世紀前半にその萌芽が見られ、後
半以降に開花した考え方です。二
〇世紀以降の諸学問や文化が、そ
れまでの自己や主観に基づいた価
値観、固定観念から次第に解き放
たれ、それらを否定する仏教的価
値観と奇しくも近づき始めている
ように思えます。

\*

といて私たちの日常生活は自
己や主観と切り離すことは出来ま
せんので、ここにまた仏教の馴染
みにくさ、難しさがあります。で
すが、現代科学の眼と古来の仏教
の眼を重ね合わせるように見ます
と、仏教は在家者である私たちに
も理解しやすい、ずっと身近なも

のようになっていく、そういう時代が
もうすぐそこまで来ているような
気がしております。

一九五二年の協会創業に尽力さ
れた発起人には、多くの自然科学
者が参加しています。心を無にし
て生の自然と日々向き合う科学者
の眼には、やがて科学と仏教が近
づき一つの真理探求へと融合して
いく未来図が見えていたのかもし
れません。

協会の四つの信条の二番目に
「積尊の説法の内容そのものは永
遠の真理であるが、それを大衆に
知らせる手段は時と処に応じ、つ
ねに新鮮でなければならぬ」と信
じていることとあります。この
一条だけがなぜか他の三つに比べ
て妙に長いのです。私はこの一条
に、当時の自然科学者たちの仏教
に対する熱い思いと進歩的な精神
が秘められているような気がして
おります。

\*

ご紹介した『自然科学と佛教』
は、今読んでも少しも古臭さを感じさせない名論稿です。このたび
大法輪閣のご協力を戴き、当協会
のホームページに掲載させていただ
きました。ご一読されることを
お勧めいたします。

# 仏教と私

『仏教に救われました』

倉岡不二枝  
(元・在家仏教協会事務局員)

在家仏教との出会いは、増谷文雄先生の「女性のための仏教講座」を拝聴したことでした。その後、鎌倉の円覚寺、建長寺、鶴見の總持寺での坐禅会にも毎年のように参加させていただきました。そして、事務局には定年まで勤めさせていただきました。加藤辨三郎理事長の下で、二橋進、内藤喜八郎の両事務局長にご教示をいただきました。

加藤理事長が亡くなられたあと、蔵書を整理されるということ、内藤さんと一緒に原宿のマンションに伺ったことがありました。ほとんどの仏教書に赤鉛筆で書き込みが施されており、お忙しいなか、こんなにも勉強されていたのですね、と話し合いながら帰路についてことを思い出します。

定年後は日本文化に興味を持ち、博物館のボランティア活動をし、また書道、茶道などの稽古も始めました。いずれも、仏教に少しで

も接していたことで、さらに興味を深めることができました。

例えば、空海の書といえは昔から有名ですが、最澄についてはあまり気にしていませんでした。ところが在家仏教の講演会で、最澄の「願文」についてのお話があり、最澄の書のすばらしさに初めて気がついたこともありました。茶道においても、禅の教えが基本的にありますので、禅宗のお坊さんによる掛軸の書は最も大事な品目であると知りました。

私ごとですが、四年前に心筋梗塞で入院しました。ひとり病院のベッドの上で、こんな時こそ呼吸をしっかりと整えなければと思い、坐禅の数息観(すそくかん)を実践しました。その後、リハビリにも励み、幸いにも無事退院できました。仏様のご加護と心から感謝いたしました。

もう少しで後期高齢者の仲間入りですが、なかなか悟ることはできません。夫や知人の何気ない言葉や言動に傷ついたり、腹を立てたり、まだまだ未熟な自分に気がかされます。これからも、仏教を学びながら生活していきたいと思っております。

# この一冊

『清沢満之と近代日本』

山本 伸裕ほか編(法蔵館)

常包芳樹(協和発酵OB)

在家仏教協会初代理事長の加藤辨三郎さんが、生涯にわたり教えを仰いだとされるのが金子大栄(以下大栄)。その大栄の仏教観に大きな影響を及ぼしたと言われるのが清沢満之(以下満之)。この満之の業績に関する論稿集が昨年末に出版された。

書名から見て取れるように仏教の領域に留まらず、哲学、思想を含むより広い視点からの考察がなされている。例えば、明治文学界の思想的交響圏の章では、満之と夏目漱石、正岡子規との関係につき論及される。「こころ」に登場する人物像のモデルは満之であった可能性があるのか。病床で苦悶する子規に届いた手紙の差出人は満之であったのか否か。真宗大谷派と漱石一門の人物が交錯する場面を紹介しながらスリリングな推論がなされる。

## 新事務所地図



## 在家仏教通信

### 事務所移転のお知らせ

在家仏教協会は、入居しておりました清風クラブ(渋谷区上原)の閉鎖にともない、事務所を千代田区神田駿河台の五明館ビルに移転しました。

新事務所において皆様とともに新しい在家仏教協会をめざしたいと思えます。今後ともご支援を宜しくお願い致します。

新住所

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台三丁目三番 五明館ビル202号

新電話番号

TEL: 03-6684-6692

FAX: 03-6684-6709

交通アクセス

JR 御茶ノ水駅 徒歩四分

千代田線新御茶ノ水駅 徒歩二分

### 年末年始の営業について

事務局業務を十二月二十九日(金)より一月四日(木)までお休みいたします。

## 会費の支払いが「コンビニでも可能」

十月より会費の請求業務をリコーリース株式会社に委託することになりました。会員の皆様への請求書はリコーリースよりお届けいたします。

これにより、会費はコンビニでもお支払いが出来るようになります。もちろん、郵便局での支払いは従来通りです。なお、皆様の個人情報、請求書のお届けの目的の範囲内でのみ利用させていただきます。

## 入会のご案内

協会では会員を募集しております。私どもは、皆様の会費と寄付によって活動しております。協会の発展のためにご協力を宜しくお願い致します。

氏名、住所、電話番号を協会事務局あて連絡下さい。会費の振込用紙をお送りします。

年会費

賛助会員 一万七千円(一口)

正会員 八千円

月刊誌「大法輪」を毎月お届けいたします

在家仏教講演会の筆録が掲載中

機関紙「いのち尊し」を毎月お届けいたします

講演会の動画を視聴出来ます

東京会場を中心に三十本配信

協会六十周年記念誌

『講演集』悲喜をよつこぶ』

『「対談集」掌を合わせて生きる』

を呈呈します

へ金子大栄の異安心事件をめぐって(副題)の章では、宗門の持つ浄土観と異なる考えを表明したとして、大谷大学から追放された大栄を巡る事件が取り上げられる。

西欧哲学を取り入れた満之に影響を受けたながら形成された浄土思想の骨子。それが宗門内に及ぼした波紋などの説明はわかりやすい。

最終章では、在家仏教協会の講演会へ登壇されたこともある安富信哉氏が、現代思想としての清沢満之と題して論述を展開されている。精神主義を旗印に精神性を深めることに重きを置きつつ、個人としての仏教を追求した満之の思索は、「私」と「公」の調和という今日的課題へも繋がると思われる。満之、大栄そして加藤辨三郎という流れを振り返れば当然ではあるが、随所で在家仏教協会が大切にしてきた考え方との重なりを感じさせられた書。



## 「いのち尊し」投稿規程

◇随想「仏教と私」(八百字まで、または千五百字まで)  
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動などをお書きください。  
◇コラム「この一冊」(八百字以内)  
感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、できれば職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用文には薄謝をお送りします。また、不採用の原稿はお返ししませんのでコピーを手元に残してください。  
原稿の送り先は〒151-0064 東京都渋谷区上原3-32-16 在家仏教協会「いのち尊し」係。  
メールは info@zaikebukkyo.com